

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎚木町 198-3
電話 (043) 485-1801

柿 ----- 高木 佳昭 「すぐやる課」 課長 ----- 今井 信幸
医者の一言 ----- 宮武 孝吉 マジックアワー ----- 岡田 幸男

近くて遠い故郷

千葉 偉固

竹島や尖閣諸島等の領土問題で、韓国や中国との外交が悪化し、連日報道されているが、近くて遠い故郷、南樺太（以下樺太）はここ二十年近く、報道等で話題に上がった事はない。わが故郷樺太を、是非知って頂きたく取り上げた。

私は、昭和15年、樺太元泊もとしまりで生まれた。樺太は、オホーツク海の南西部にある南北に細長い島で、北海道の宗谷岬から、北へ43kmの位置にあり、面積は北海道よりやや小さいが、石油、天然ガス、石炭等の豊富な地下資源に恵まれていた。元泊は島の南西にありオホーツク海に面し、人口は約7800人、天然の良港で知られ、漁業、林業、鉱業等の産業が盛んなまちであった。

舎が並んで建ち、いつも子供達の声が絶える事がなかった。

樺太鉄道元泊機関区の責任者であった父は、部下思いの温厚な人で、家には若い機関士が何時も来ていた。日本に無事に帰還できたのも父のお陰で、今でも尊敬している。

私は元教員の祖父が大好きで、いつも傍から離れなかつた。祖父は、私が生まれた年に我家に来て、特に私を可愛がってくれた。祖父には川での鮭の獲り方や氷結した海に穴を開けて、氷下魚こしもりの釣り方、アザラシや野ウサギの罠の作り方等、良く教えて貰った。冬の風物詩で、祖父の手綱で鈴を鳴らして雪道を走る馬橇うまがしは忘れられない。

った事が一瞬に消えた。

ソビエト連邦の帰還方針に基づいて、日本人は昭和21年から順次祖国への引揚げが開された。私達家族への帰還命令は、昭和23年5月で、雪が降る寒い朝に、真岡まおかに向け引揚げが始まった。貨物列車と貨物船にぎゅうぎゅうに押込まれ、見知らぬ内地に向け出発した。日本海は荒れ船酔いに悩まされ、船内は異臭が漂い函館港に到着するまで、大変辛かった事を子供心に良く覚えてる。

日本政府は北方領土問題と絡み、ロシアの実効支配について「異議を唱える立場はない」と積極的に領土返還要求をしていない。夢を託して極寒に耐え、開拓に尽くした人達が、次々にこの世を去って行く。日本政府には、故郷樺太を見捨てないで欲しい。

(編集委員)

柿

私は柿が大好きです。柿は好きな人も多いが、嫌いな人もかなりいる。理由を聞くと軟らかいから「嫌い」、硬いから「嫌い」と柿の食感によるところが多いと聞いている。そういう私も柿なら何でもいいというわけではなく、軟らかいのはきらいで、硬くて食べるときカリッと音がするぐらいのしか食べない。スーパー等で売っている柿は渋抜きが多く軟らかいので嫌いである。幸いにも家内の実家に一本だけその硬い甘柿の木がある。実家の人は誰も食べないので、取り放題なのだ。

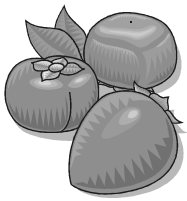
そして甘柿が終わり十一月になると、渋柿でつるし柿を作る。豊作の今年は知り合いの人から渋柿を欲張ってなんと500個も分けてもらい、妻、母(90)、私の3人で皮をむき、軒先につるした。すだれのようになったつるし柿

はかなりの壮観である。

佐倉は気候が暖かです。柿には厳しく、油断をすればすぐカビが生えてくる。出路上がるまで約1か月。そのあいだ何回か優しく揉んでやる。今年も例年にもまして甘いつるし柿が出来上がり、食べきれないので近所におすそわけした。又つるし柿にも好き嫌いがあって、軟らかいのは嫌いで硬めに仕上げる。食感が微妙なのである。

毎年渋柿は近所から分けてもらうばかりなので、3年前から苗木を植えて育てているが、昔から桃栗3年柿8年といわれているので、自分の木から実が取れるのは、あと5年も先になってしまう。それまで元気でいられることを願っている。

(宮ノ台 高木 佳昭)



「すぐやる課」課長

松戸市の「すぐやる課」は昭和44年に松本清市長によって創設されたものである。

当時の日本の行政は、市民の要請を即決実施する事は皆無に近く、大きなセンサーションを巻き起こし、昭和50年には全国315の自治体で、採用されたと言われている。

その後、自治体職員の意識が変わり、全ての部署にすぐやるという意識が定着し「すぐやる課」という特命部署は減ってしまったようだ。

しかし乍ら、今以て国の行政は、その意識が欠如したままである事は残念である。

さて、私事であるが、市民カレッジを卒業し、悠々自適の日々を送ろうと思っていた矢先に妻に先立たれ、独居老人になってしまった。

炊事・洗濯・掃除等全てをこなさなければ生きてゆけない現実に直面し、周章狼狽で

ある。待たなしの家事は、ずぼらを決め込むことが出来ない。すぐやらないと、どんどん溜まってしまふ。

残り少ない人生を有意義に過ごす為にも、明日とは言わず今日、今日とは言わず、今日直ちに行動する事が極めて肝要である事を悟った。

川西寿一さんという方の詩に次のような一節がある。

あした死んでもいいように
百まで生きてもいいように
考え考え生きていこ
食べたいものは食べておこ
行きたい所へは行っておこ
会いたい人には会っておこ
足腰立って元気なうちに

今、この詩を実践するのは71歳「すぐやる課」課長である。

(井野 今井 信幸)



医者の一言

若いころから胃腸が弱くて悩んできた。通勤が苦痛で、各駅のトイレの場所はすべて知っていた。お医者さんの診断はそのつど、胃炎、神経性胃炎、過敏性腸炎などいろいろだったが、要するに訳の分からない厄介な症状であった。が、N医大で検査を受けた時、医者が言った。「普通の人より、腸が細くて長い。今まで、さぞ苦しんだことでしょう」。この言葉を聞いて、私のことが分かってくれる医者にやっと巡り合うことができた、と嬉しかった。

歯も弱かった。若い時から手入れを怠ったためだが、虫歯と歯槽膿漏で一本抜き、一本抜き、を繰り返した。前歯がケーキに刺さって抜けたこともある。それでも自前の歯は大切に教わり、少なくなつた歯で頑張っていた。

そんな時、医者が言った。「これじゃ、ものが噛めない

でしょう。胃腸によくない。全部抜いて、総入れ歯にしたほうがよい」。自前の歯は大切に、とは逆で驚いたが、素直に医者忠告に従った。以後、歯で苦しむことはなくなつた。

ある日、お腹が痛くなつて近所の医者駆け込んだ。訴えを聞いて医者は言った。「そりゃ君、石だよ」。意外だった。石では七転八倒の痛みに襲われ、摘出手術を受けた経験が二度もある。

尿路結石と腎臓結石でえらい目にあつている。しかし今回の症状はあの時とは違う鈍痛で、よもや石だとは思つてもみなかったのだが、検査の結果はやはり石だった。即座に紹介状を書いていただき、その足でT医大へ急行、衝撃波で砕いてもらった。

いずれも医者の一言に救われた事例である。こうした名言をはいた医者は、私にとつての「名医」である。

(上志津原 宮武 孝吉)

マジックアワー

写真展を見に行った。巢鴨にある東京都写真美術館で開催されている「吉村和敏写真展」である。一つのテーマをひたむきに追い求めているただ若い写真家で、そのテーマが「マジックアワー」なのである。

夕日が沈んだ直後から、空に一番星が現れるまでのわずかな時間を、マジックアワーと呼ぶ・・・と解説されている。世界が最も美しく見える魔法の時間であり、もう何年も前から映画関係者の間で話題になつていた。やわらかな光に包まれたこの時間帯にカメラを回すと、照明装置を使わなくても、人物や風景を劇的に美しく見せることができるとも。

写真展での作品の数々は素晴らしいものであった。まぶしい太陽光がなく、風景や人物が静寂の中に沈み込み、優

しい光で包まれて表現され、香しい草原を渡るひそやかな風の音や、建物からもれる灯火を透かしてゆつくりと流れる時間が感じられ、しばし展覧会場に佇んでいた。

印旛沼の岸辺に近い八幡台に住んで三十有余年になる。夏は花火大会、冬は渡り鳥の姿を見ながら印旛沼に親しんできた。印旛沼は時に応じて、写真の被写体として花火や風景を写してきた。カレツジのフォトサークルに所属して二年になるが何時まで経つても腕は上がらず、撮影会での仲間の写真との比較で、技量の格差を実感している。先輩からは被写体を決め、季節や時間を変えて撮影するようアドバイスを受けている。

写真展を契機にマジックアワーの印旛沼がどのような姿なのかとても気になり始めた。印旛沼の陽が落ちた直後に通い詰めれば、少しでもいい写真が出来るかと思ひ始めている。(八幡台 岡田 幸男)

11月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鏑木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

やぐら道

先日、友人の墓参りに静岡へ行く機会がありました。新幹線で1時間、居眠りしている間に到着、うっかりしていると乗り過ごしてしまうような近さでした。速さと便利さをあらためて実感しました。

少し時間があり、徒歩10分の駿府城を見ってきました。堀にかかる東御門と巽櫓は復元されているが、天守閣は失火の為焼失したままです。本丸・二ノ丸は公園に、三ノ丸は学

校・官公庁の諸施設になっており、立派な堀に囲まれた典型的な平城です。高台の巨木や田園風景を見下ろすことのできる佐倉城址の自然美とは対照的でした。

商店の御主人や女性の歩行者に、城への道を尋ねた折「ありがとう御座居ます」と、一様に観光訪問へのお礼の言葉を丁寧な述べられたことが強く印象に残りました。

(天蔵 康次)

あとがき

編集会議で、柿が「硬い」か「固い」、それとも「堅い」か迷い悩みました。調べてみますと硬いは「力を加えても形が変わらない状態を表す」。反対は「軟」。堅いは「中が詰まっていて碎けにくい状態を表す」。反対は「もろい」。固いは「全体が強くて形が変わらない状態を表す」。反対は「ゆるい」。「硬軟」「剛柔」…。一語一語意味が深いと痛

感させられ、勉強させてもらえます。

魔法がかけられた「マジックアワー」の印旛沼写真、楽しみです。「柿」軒端に揺れる橙色の鮮やかなつるし柿、郷愁をそそられます。「すぐやる課課長」起承転結の洗練された文、端々からよりよく生き抜く気概が伝わってきます。「医者の一言」6回目の寄稿に感謝しつつ医は仁術なりと共感させられます。

(鶴田 行男)